

情報連絡員報告・6月分

製造業の「売上高」、「業界の景況」のDI値、大幅に悪化

<東京都中央会>

6月の情報連絡員報告によると、前月とくらべ、製造業の売上高は約10ポイント、業界の景況は約17ポイント悪化した。対照的に非製造業の業界の景況は約10ポイント好転し、売上高は不変だった。

特記事項からは6月より強化された駐車違反の取り締まりの影響に関する報告がよせられ、要望事項として、取り締まりの改善を求める意見がよせられた。

製造業65人、非製造業85人、計150人の集計。

特記事項欄より

「繊維・同製品」

- ・天候の影響か、前年比で60～70%程度の売上。7月の好天を期待している。

「木材・木製品」

- ・住宅着工戸数は、4月より3ヵ月連続で増加したが、マンションの大幅増であり、大手や中堅のゼネコンは売上を伸ばしているが、組合員にその影響が及んでいるとはいえず、平行線で推移している。

「出版・印刷」

- ・原油高が続いて、印刷用紙が秋口にさらに値上げされるという情報がある。材料費の8割を占める印刷用紙の値上

げは、組合員の経営を直撃する。

「電気機器」

- ・企業間にバラツキはあるが、堅調な動き。資材の値上りは一部に落ち着きが見られるが、銅関係など、値上りの厳しいものがある。仕事はでているが、短期に集中する傾向が強く、外注への依存度アップ等、収益悪化の要因が増えている。

「卸売業」

- ・トンあたり100万円まで上昇した銅建値はトンあたり84万円まで下落している。価格転嫁交渉中の下落だけに、値決めが難航している。電力用・工事用などの動きは落ちていない。

「小売業」

- ・6月も日照不足と気温の低い日が続き、購買量が左右された。また、外食・中食が盛んで、食材を購入して家庭で食事を作る機会が減少している。量産豆腐工場同士のシェア争いで価格の激戦と生産過剰が続き、中堅や大手工場も淘汰されている。
- ・6月からの駐車違反取り締まり強化により、商店街によっては数十回も監視員が見回りに来て、お客の減少傾向や業者と店側のトラブルなど、中小企業にとって深刻な問題となっている。
- ・6月からの駐車違反取り締まり強化により、業界の生命線ともいえるトラック等の配送に困難が生じている。5分で配送は不可。また、助手席に常時1名を置くのは中小企業には無理があ

り、今後の対応によっては死活問題になりそうである。

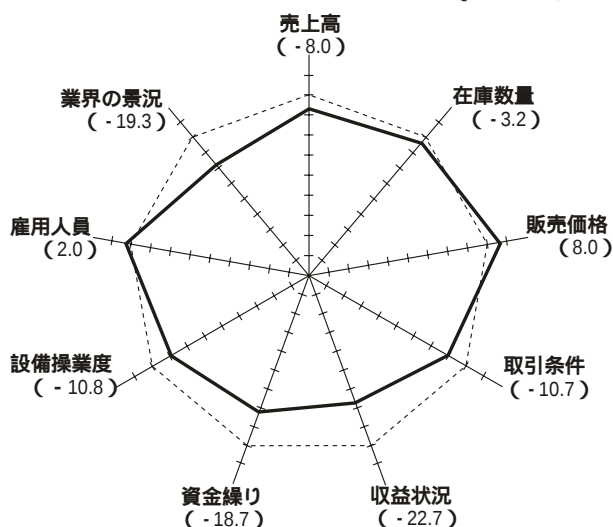
「商店街」

- ・サッカーワールドカップの影響は日本が早々に敗退したこともあり、テレビの売上など、期待外れに終わった。

<要望事項欄より>

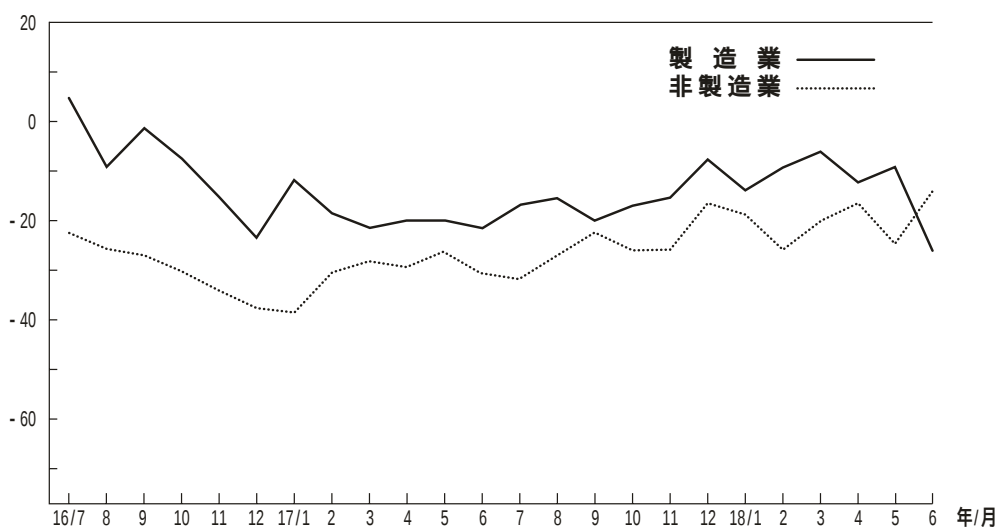
- * 6月～9月のクールビズ期間の短縮を検討してほしい。 [繊維・同製品]
- * 駐車違反の取り締まり強化が、都市部の組合員にとって大問題となっている。せめて、15分位の猶予措置を講じてもらえないか、関係省庁へ陳情してはどうかという意見も出ている。 [卸売業]
- * 道路交通法の改正により、配達に要する人員を2人体制にせざるをえない組合員が数社、見受けられた。業界として改善を望む。 [卸売業]

6月のレーダーチャート（全産業、前年同月比DI値）

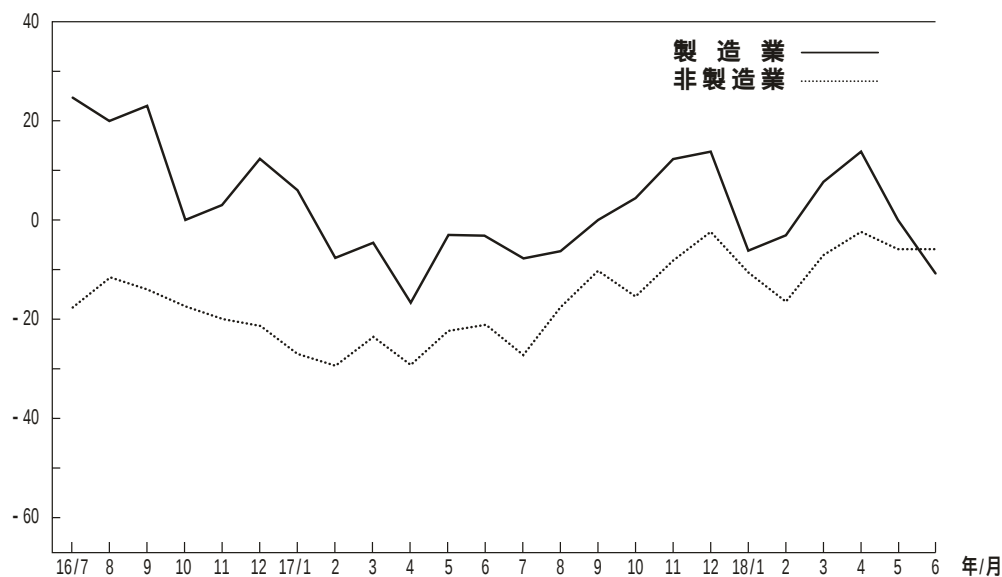


(注)点線の9角形が「DI = 0」を示す。したがって、点線の内側は「減少」「低下」「悪化」、外側は「増加」「上昇」「好転」となる。

業界の景況DIの変化（H16.7～H18.6）
（前年同月比）



売上高DIの変化（H16.7～H18.6）
（前年同月比）



(注)DIとは、ディフュージョン・インデックスの略で、前年同月に比べ「増加」・「上昇」・「好転」したとする割合から「減少」・「低下」・「悪化」したとする割合を差引いた値である。